

柳の下を求めて

小学校 10 期、中学校 8 期卒業 橘高又八郎

昨年 55 年ぶりに 1 年月組のクラス会を行いました。そこで、今年は 6 年月組のクラス会を行いました。お礼を言われたことに煽てられ、柳の下のドジョウを探したわけです。

日時は 7 月 16 日(土)、場所は去年と同じく雲雀丘学園 告天舎。料理は同級生にしむら屋、飲み物は同級生のやぎやから取り寄せました。これからクラス会を予定している学年もぜひご利用下さい。翌日のゴルフは 15 名参加し、邦家（ほうか）のために働いている東京から参加の下荒地修二君が優勝の栄誉を得ました。

今回は北海道から 1 名東京方面から 7 名も参加して頂きました。結果、先生を加え 39 名ご参加頂きました。6 年生ともなれば全員の名前を覚えており、少なくとも私は、言葉を交わした記憶がございます

当時の思いでは石拾い、我ら愛す、ブルドーザー、校庭の森、ガラス工場、ラジオ制作、野球、甲山徒歩遠足、地区別対抗リレー、ほかほか弁当、長嶋来訪、若狭高浜、転校など多種多様な回答が寄せられました。私にとってもすべて思い当たることばかりです。

出席者の中には前大使、教育委員長、同窓会でボランティアをしている方々、今や老老介護を献身的に続けている方、退職してマイペースに生きている人、現役の社長で頑張っている人、髪の毛の白い人、薄いひと、昔の体重が維持できない人、地域のために奉仕している人など、50 年の時は残酷にも違いを見せつけました。

それでも童心に戻り楽しい、懐かしいひとときを作れたことに感謝いたします。お世話を 2 年間やらせて頂いて雲雀丘学園同級生の暖かさ、思いやりを感じる事が出来ました。これこそが学園の精神ではないでしょうか。